

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19320025
研究課題名（和文）「肖像」をめぐる脱領域的研究

研究課題名（英文） Interdisciplinary research for portrait

研究代表者

岡田 温司（OKADA ATSUSHI）
京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授
研究者番号：50177044

研究代表者の専門分野：西洋美術史
科研費の分科・細目：美学・美術史
キーワード：アイコン、イメージ人類学、神話学、肖像、呪術、類似

1. 研究計画の概要

「肖像」はある意味で視覚芸術の原点である。歴史的にも地理的にも「肖像」はほぼ普遍的に存在し、これからも存在し続けるだろう。このように、ある特定の人物（あるいは不可視の神）の容姿や姿態などを写し取るという人間の行為は、芸術的表現の根源に深くかかわるものである。それゆえ、これがタブー視されることがあるのにも深い理由がある。しかも「肖像」は、視覚芸術だけでなく、古今東西の神話や文学においても非常に重要なテーマであり、「肖像」をモチーフとする数々の傑作が生み出されてきた。それゆえ、「肖像」の問題は、美術史や美学・芸術学という観点から考察するだけでは、必ずしも十分であるとは言えない。神話学、宗教学および神学、人類学、心理学、精神分析、文学など、さまざまな領域からこの問題にアプローチする必要があるだろう。本研究は、大きく以下の4つの分野にわたって、「肖像」の本質に迫ろうとするものである。1. 「肖像」の美学・哲学、2. 「肖像」の人類学・心理学、3. 「肖像」の美術史、4. 神話と文学における「肖像」。

2. 研究の進捗状況

初年度は、国立台湾博物館と台湾師範大学の協力を得て、台北国立博物館において「肖像の東西比較文明論」という題目で共同シンポジウムを開催した（2008年3月18日）。日本からは私も含めて3名、台湾からも3名が発表し、さらにコメンテーターも加えて、日本と中国と西洋における肖像の思想と作品について研究発表と討論を行った。それぞれの類似点や相違点などについて活発な議

論が交わされ、互いの理解を深めることができた。

次年度は、(1) ギリシア演劇や哲学における「仮面」や「顔」の問題、(2) 「肖像の力」に関する美学・哲学的考察、(3) 女流画家の自画像に関するジェンダー論的考察、(4) ルネサンス肖像画の「魔術」等について研究発表会を持ち、美学・美術史はもとより、心理学、神話学、人類学、ジェンダー論など複数の観点から「肖像」の問題について考察と議論を重ねた。さらにスイスのフリブール大学教授のヴィクトル・ストイキツァを招聘し、京都大学、福岡市美術館、京都造形大学で、西洋近代の肖像画の特異性に関して公開シンポジウムを開催した。

三年度目は、主に文学作品のなかに表われた肖像に注目した。とりわけ西洋では肖像は絵画の起源ないしイメージの根源として捉えられてきたという長い歴史がある。しかも古代の文学ばかりでなく、近代文学においても肖像は多くの作家たちに多様なモチーフとインスピレーションを提供してきた。死、分身、仮面、「不気味なもの」といったテーマと肖像との深いつながりが、これらの研究を通じて明らかになってきた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

各分野の研究発表会に加えて、初年度に開催した台北国立博物館でのシンポジウム、次年度にフリブール大学教授ヴィクトル・ストイキツァの招聘等、国際的な交流ができたことは、幅広い視野から「肖像」の問題にアプローチする本研究にとって大きな成果をも

たらしめた。これらのシンポジウムは一般にも開放されたが、いずれも多く聴衆の方の参加が得られたことの意義も大きい。また代表者である岡田温司は、これまでの成果を『肖像のエニグマ』（岩波書店、2008年）という一冊の本にまとめることができた。

4. 今後の研究の推進方策

以下のテーマに関して研究会等を開いて研究と討論を重ねていきたいと考える。

- (1) 肖像の政治的機能、日本と西洋との比較も含めて
- (2) 肖像の宗教的・呪術的機能、近代にも生きてきたこれらの機能をめぐって
- (3) 精神分析から見た肖像、分身論や「不気味なもの」（フロイト）との関連から
- (4) 絵画の肖像と彫刻（立体）の肖像との比較論、その機能や用途の差異と類似性

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計1件）

岡田温司「半透明なるもの」、表象文化論学会、2008年11月14日、東京大学（駒場）

〔図書〕（計4件）

- ①岡田温司、平凡社、『フロイトのイタリア』、2008年、316頁
- ②岡田温司、講談社、『イタリア現代思想への招待』、2008年、229頁
- ③岡田温司、岩波書店、『肖像のエニグマ』、2008年、310頁
- ④岡田温司、中央公論新社、『キリストの身体』、2009年、278頁